

学校教育目標		学校の現状分析		学校経営方針(中期経営目標)		
「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」 《目指す児童像》 み 自ら考え、豊かに表現する子 や やさしく、思いやりのある子 ま まっすぐ伸びるたくましい子 * 児童が生き生きと活動し成長することを、保護者・地域・教職員が手を携えて取り組む学校		○児童は全体的に落ち着いた穏やかな学校生活が送れており、真面目に学習や諸活動に取り組んでいる。 ○学級の中で、自分の意見や思いをよく発表している児童はやや増えたが、今後も様々な機会を通して、表現力・コミュニケーション力、自己肯定感を高めていく必要がある。 ○宿題等、与えられた課題に対しては真面目に取り組んでいるが、主体的・意欲的に学ぶ家庭学習・読書習慣について、個々の状況に応じた指導を、家庭と連携を図り展開していく必要がある。 ○授業や日常の運動を通して、自身の体力が向上した児童は増加したが、朝活動や授業展開の工夫により、更なる体力向上を目指した取組が必要である。		○確かな学力・豊かな人間性・たくましく健やかな体(健康・体力)を持つ児童の育成 ○「地域とともにある学校」として、地域と協働した取組による相互の活性化と人権意識の高揚 (1)人権尊重の精神が底流にある学校で、児童一人一人の自己肯定感を高めながら、自身・仲間を大切にする児童を育成する。 (2)ICT機器の効果的活用を進め、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。学ぶ意欲の喚起と基礎学力の定着を図り、自らの思いや考えを表現する力を育成する。 (3)地域とともにある学校として、地域の教育資源の積極的活用と地域道德の取組を通して、地域活性化や地域の人権意識の高揚を図る。 (4)教職員研修を充実させ、実践的指導力の向上を図る。また、ICT活用や校務の効率化により、教職員が児童と関係づくり等ができる、働きがいのある魅力ある学校にする。		
学 校 経 営 の 重 点(短期経営目標)		成 果		評価	課 題	改善策 等
◆人権教育・仲間づくり ○同学年や異年齢での活動・取組を通して、児童同士のつながりを深め、自己肯定感・有用感を高める。また、「地域道德」「家庭における道德教育」「考え、議論する道德授業」を通して、道德実践力を養う。		○可能な限り同学年、異学年での活動をすることができ、つながりを深めることができた。地域・家庭のご協力により、地域道德・お家で道德も実施でき、道德的な態度と実践力を育てることができた。		B	○人権旬間や学級活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高めることができた児童もいたが、全体的には、まだまだ低い児童が多く、さらに自己肯定感ももてる児童を育てなければならない。	○あらゆる教育活動の中で、児童一人一人を評価し自己肯定感・有用感を高めていく。また、教職員の人権感覚を磨く研修会を今以上に実施し、指導力向上を図る。
◆授業改善・確かな学力 ○ICT機器を効果的に活用した授業改善に取り組むとともに、「学力向上」に重点を置いた研究を推進し、認知能力と非認知能力の一体的向上に向けた、授業や家庭学習の指導改善を図る。		○ICT機器の活用による主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善が一定進められた。また、優れた自主学習ノートを紹介することで、家庭学習の意欲喚起を図ることができた。		B	○各学力診断テスト結果等から、基礎・基本的な知識・思考が未定着な部分が見られた。 ○授業研究会等で確認した授業スタイルの実践が、学年によっては不十分な部分が見られた。	○小学校6年間、また中学校3年間を加えた9年間を見通し、特に低学年時の基礎・基本の徹底、学びあい・振り返りを重視した授業改善、家庭学習指導の取組を今以上に充実させる。
◆健康安全・体力向上 ○新型コロナウイルス感染症に関する対策マニュアルや最新の知見に基づき、学校生活や家庭での感染対策を徹底する。 ○朝の体力づくりや外遊びの推奨、体づくりを意識した体育授業を実施する。		○その時の状況に応じた感染対策に取り組むことができた。 ○全学年で朝マラソンや縄跳び等に取り組む、運動の機会を確保し意欲向上を図ることができた。また、休み時間に外遊びをする児童も増えた。		B	○運動に対する意欲向上を図ることはできたが、全体的にはまだまだ意欲的とは言いが切れない。	○引き続き、新型コロナウイルス感染症に関する最新の知見に基づき感染対策の徹底を図る。 ○児童が運動の楽しさを実感できるよう、導入の工夫や体づくり運動を多く取り入れた授業を今以上に推進する。
◆地域連携・地域とともにある学校 ○美山をフィールドにする地域と協働した活動を教育課程に位置づけ、PTA・地域とともに体験活動等を展開し、地域を深く学ぶ学習の充実を図るとともに、非認知能力の向上を図る。 ○地域道德に取り組む、「生き方」を考える機会を通して、児童・家庭・地域の道德性を高め、人権意識の高揚を図る。 ○学校・PTA・学校運営協議会等が連携して、あいさつや読書習慣を定着させる取組を進める。		○体験のみで終わることなく、その後のまとめ学習等の場面において、非認知能力の向上を意識した活動が一定できた。 ○学校運営協議会と協働して、ふるさとのこれからを考える地域道德を実施することができた。		A	○全体的には、取組の中で非認知能力の向上を意識した活動が一定見られたが、興味・関心が体験活動のみになってしまう児童もあり、非認知能力を育てる意識付けにはまだまだ課題が残った。	○事前学習・体験活動・まとめ学習等、それぞれの場面において、コミュニケーション力や社会性、思考力・表現力を育てる指導をさらに充実させる必要がある。
◆働き方改革・学校の組織力向上 ○ファイル共有データをさらに効果的に活用し、校務処理の効率化を図り、勤務時間の縮減を推進する。		○ICT機器の活用により、打ち合わせ等の効率化を図ることができた。		B	○昨年度に比べ、全体的に見ると勤務時間の縮減には至らなかった。	○一斉退勤日の設定を守る等、全員で勤務時間縮減の意識を高める。 ○ファイル共有データのさらなる活用を進める。